

あつま

生涯学習だより

発行 厚真町教育委員会 電話 27-2495

主な記事

- ①令和3年度厚真町文化祭/図書フェスティバル
- ②中学校でふるさと教育成果発表/町内事業所で職業体験学習
- ③児童生徒芸術鑑賞会/令和3年度胆振管内社会教育委員永年勤続表彰/令和3年度教育委員会表彰
- ④縄文時代の土偶が出土/聖火リレートーチ展示/10月定例教育委員会
- ⑤図書室だより
- ⑥放課後子ども教室活動紹介

令和3年度厚真町文化祭を開催

文化の秋

約600点の作品を展示して2年ぶりの開催

11月3日(水)と4日(木)の両日、総合福祉センターと厚南会館を会場として、令和3年度厚真町文化祭が開催されました。

昨年の文化祭は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて中止となりましたが、今年度は文化団体やサークル、町内の学校から数多くの出展を受けての開催となりました。

文化祭は感染防止対策の影響もあり展示部門だけの開催となりましたが、2日間で約400人が来場し作品を鑑賞していました。作品を出展した団体等からは「開催できないと思っていたけど、開催できてよかった」との感想もあり、実りある時間となりました。



厚南会館会場



福祉センター会場

文化祭と同日開催

図書フェスティバル



11月3日(水)、青少年センターを会場として「図書フェスティバル」が開催されました。

会場では、暗い図書室の中で宝物を探す「ちょっと怖いお宝探し」や「電子図書の体験コーナー」など各種イベントが開催され、幼児から大人まで78人が参加し盛況な1日となりました。

2階では読み聞かせボランティアグループ「おはなしのびっ子」による絵本の読み聞かせ会のほか、不織布に描かれたイラストに色を塗って完成させる「パネルシアター」や「ペープサート」の工作活動が催され、子どもたちはカラフルな色を使いながら芸術の秋を満喫していました。

また、夜には、天体観望会も開催され55人が参加しました。当日は木星のしま模様や土星の輪も観測でき、歓声が上がっていました。



おはなしのびっ子による絵本の読み聞かせと絵本の展示コーナー

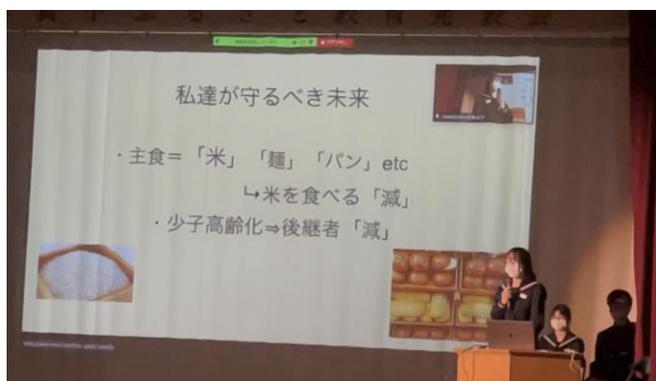
中学校でふるさと教育成果発表

「ふるさと教育」の一環として、10月25日（月）に厚南中学校、10月26日（火）には厚真中学校で、3年生の取組の成果発表がありました。

厚南中学校では、移住により町内で起業した事業者の挑戦の様子やそこから見えてきた厚真町の新たな魅力などを生徒自身がまとめた動画の発表があり、発表後には、取材先の事業者や宮坂町長、遠藤教育長を交え、厚真の課題や未来について語り合う座談会も開催されました。

厚真中学校では、地元事業者や特産物の魅力について生徒自身が取材・編集した動画やその動画をSNSで発信した結果分析などが発表されました。

生徒からは「田舎が不便だと決めつけるのではなく、まず地域についてより深く知ることから始めたい。」「ふるさと学習を通じて、今まで気づいていなかった厚真の魅力を再発見できた。」「自分たちが誇れる厚真町を世界に発信できて良い経験になった。」等の感想が聞かれました。



厚真中学校でのプレゼンテーション



宮坂町長を交えて座談会を開催した厚南中学校



動画を
含むFB



おすすめ
レシピ集

QRコードからFBやレシピ集を観ることができます。



めぐみ水産



近代木工制作



暮らしこ

QRコードから町内で起業した事業者の動画を観ることができます。

町内事業所で職業体験学習

町内の中学校2校

10月21日（木）、22日（金）に厚真中学校1年生が、9月29日（水）、30日（木）には厚南中学校2年生が、キャリア教育の一環として、町内計30の事業所で職業体験学習を実施しました。

生徒たちは、1人1事業所に分かれて、働くことのやりがいや、厳しさについて体験するとともに、自分が将来就きたい職業についての考えを深めていました。

生徒からは、「働くとはどういうことか、仕事の大変さや、楽しさを知ることができた」との感想が聞かれました。



土木作業に挑戦する生徒

児童生徒芸術鑑賞会開催

10月26日(火)、厚真中央小学校で、「劇団風の子北海道」による演劇鑑賞会が行われました。

演劇は、「夢中になるから生まれる子どもの力」をテーマに上演され、いろいろな遊びを通して次々に自分の場所をつくっていく場面展開や迫力ある役者の生演技に児童らは終始見入っていました。



中央小学校で演じられた劇「かぜのこびーぶーびーひゃら団」

令和3年度胆振管内社会教育委員永年勤続表彰

10月27日(水)苫小牧地域職業訓練センターで、令和3年度胆振管内社会教育委員永年勤続表彰式が行われ、胆振管内で9人の方が表彰されました。厚真町からは平成26年から社会教育委員として活動している吉岡博和さん(豊丘)が胆振管内社会教育委員連絡協議会会長から表彰状を受け取りました。

吉岡さんは、スポーツ少年団連絡協議会会長や厚南地区学校運営協議会会長など、永年にわたり町の社会教育振興に寄与されていることが評価されたものです。



感謝状を受け取る吉岡さん

令和3年度教育委員会表彰 石間 巧さん、丹羽 智大さんを表彰

10月28日(木)、青少年センターにおいて、令和3年度厚真町教育委員会表彰式が行われ、石間巧さん(京町)、丹羽智大さん(豊丘)の2人に、遠藤教育長から表彰状が授与されました。各受賞者の功績は下記のとおりです。

石間巧さん 平成18年から15年余にわたり学校医として本町児童生徒の健康管理指導及び学校保健・衛生の向上に貢献

丹羽智大さん 平成22年から10年余にわたり上厚真バドミントンスポーツ少年団の指導者として、青少年の健全育成とスポーツ振興に貢献



前列中央左から石間さん、丹羽さん

桜丘1遺跡 専門家も見とれる縄文の顔！ 縄文時代の土偶が出土

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センターが今年8月から10月1日まで実施した北海道開発局の厚真川水系砂防事業に伴う桜丘1遺跡発掘調査で、今から約3,000年～3,500年前の縄文時代後期の土偶の頭部が出土しました。

厚真町内では、これまでも朝日遺跡において約2,800年前の板状土偶が出土していましたが、今回は立体的に目・鼻・口などがはっきりと作り出されており、一部には赤色に着色されていた痕跡も残っていました。

土偶は、土器や石器などの日常生活道具とは異なり、厚真に暮らしていた縄文人の精神文化を伝える貴重な資料です。発掘調査では頭部のみの発見であることから、何らかの目的をもって意図的に壊された可能性があります。

現在は遺跡発掘調査も終え、砂防堰堤などの工事が着々と進んでいます。出土した土偶は江別市の北海道埋蔵文化財センターにて図面作成や各種分析などの整理作業を行っており、来年度に厚真町に戻ってくる予定です。



出土した土偶頭部



桜丘1遺跡の発掘調査

聖火リレートーチ展示

東京 2020 オリンピック聖火リレーランナーの末政知和さん（幌内）、田中葵さん（新町）、江川京珠さん（新町）、山田清司さん（札幌市在住）の4人から、聖火リレートーチの寄贈がありました。寄贈されたトーチやユニフォームは記念品と共に厚真町スポーツセンターに展示しています。



10月定例教育委員会

10月28日（木）に開催された定例教育委員会の会議内容についてお知らせします。

◆報告◆

教育長行事参加等の動向について／教育長専決処分について／令和3年度小学校プール利用の実績について／JAとまこまい広域からの新米寄贈について／教育研究所第4回運営委員会について／10月定例校長会・教頭会について／パワーハラスメントをはじめとする各種ハラスメント指針の制定について／重要考古資料の文化庁調査官による整理指導について／カムイノミ・イチャルパの開催について／森のひろば2021について／第21回健康ふれあいマラソン大会について／2021厚真町聖火リレーについて／ふるさと学習発表会について

◆議案なし◆

◆お問合せ◆

教育委員会学校教育グループ

☎ 27-2494

図書室だより

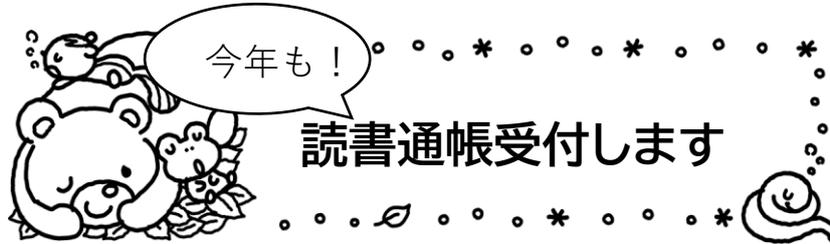
青少年センター図書室
TEL 27-2495 (平日)
TEL 27-2321 (土日)

11月3日 図書フェスティバルご来場ありがとうございました

午前中は読み聞かせボランティアグループ「おはなしのびっ子」によるお話道具の製作体験会でした。10組のご家族の方に参加していただきました。

出来上がった作品をみんなに見せてくれたり、野菜やケーキに値段をつけてお店屋さんになってくれたりしてとても楽しい2時間でした。ぜひご家庭でも楽しんでくださいね。

午後は一転して、図書室がお化け屋敷に変身しました。タイトルの通り、「ちょっと怖い」を目標に飾りつけしましたので、本格的な怖さを求めている人には物足りなかったかもしれませんが、真っ暗で、謎の怪人が潜む図書室を楽しんでもらえたと思います。今から次回の図書フェスティバルを考えておきますので、お楽しみに！

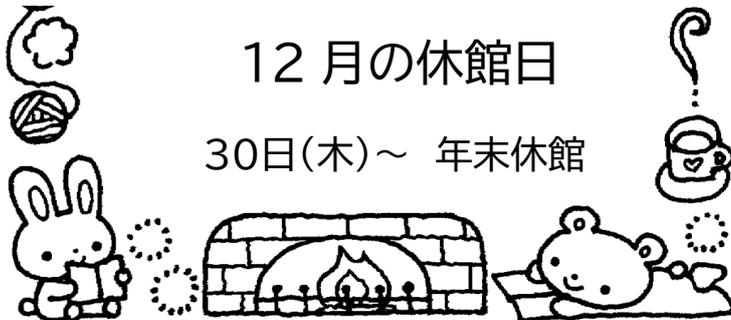


2021年1月から12月までの間に厚真町青少年センター図書室で借りた本の記録を、1冊の本にしてお渡しします。1冊1冊手作りしますので、お渡しするまでにお時間をいただきます。読書とともに今年1年を振り返りませんか？ 詳しくは青少年センター図書室カウンターまでお問い合わせください。



引き続き感染防止対策にご協力ください

- ・体調が悪い時、または家族の中に体調が悪い方がいる時は、外出を控える。
- ・図書室へ来るときは、マスクを着用して、入口で検温、消毒をする。
- ・図書室内では常にマスクをして大声での会話を控える。



- 青少年センター図書室開館時間
午前9時から午後5時(月・水・金・土・日)
午前9時から午後7時(火・木)
- 厚南会館図書室
午前9時から午後5時(月～日)
※毎月5日・20日が土日・祝日の場合は休館となります。

12月の「おはなしのびっ子」による絵本の読み聞かせは
16日(木)10時30分から11時まで
場所は青少年センター図書室絵本コーナーです。

☆放課後子ども教室☆

木々の枝から葉が落ち、赤や黄色のじゅうたんが広がったかと思えば、翌日には茶色へと変わり、風と共にカサカサと音を立てて舞っていく様子を目にすると、植物も冬支度に入っていると感じます。どんどんと増す朝晩の冷え込みに、憂鬱ゆううつに思うこともありますが、子どもたちと一緒に身近な自然に触れていると、季節の巡りを楽しまなきゃ損だな、と気持ちが明るくなります。自然が持つパワーは偉大です。

10月の子ども教室は、穏やかな秋晴れに恵まれました。紅葉した落ち葉を使った壁飾りを作ったり、植物の種を拾って小さなポットに植え、どんな芽が出て来るか春までのお楽しみ実験をしたり、秋ならではの遊びを楽しみました。昨年同様、今年も少なかったドングリ。種探しのときには、毎年お世話になっていましたが、今年はなかなか見つからず、子どもたちも地面とにらめっこです。しかし、いつも見つけるものがないことは、悪いことばかりではありません。栗やモミジ、イチイ（オノコの木）など、違う植物に目を向けることにつながりました。見慣れたものがないときこそ、新たな発見や視野を広げるチャンスも増える、そんなことを感じる場面でした。

10月30日（土）に今年度2回目となる【子ども教室特別教室・あつまっ子ふるさと体験教室】を開催しました。今回のテーマは、草木染です。身近な自然に触れる機会であることはもちろん、植物が持つ色の化学的なチカラを体験的に学べるプログラムとなりました。午前中は、厚真町環境保全林へ、染め物の材料を探しに出発。ミズナラやヨモギなど4種類の植物を探し、葉っぱや茎、枝を手やハサミを使って細かくします。お昼ご飯を食べている間に、集めてきた材料を火にかけ煮出し、午後からはいよいよ染色の作業です。ビー玉やサランラップ、輪ゴムを使い、絞りなどの模様をつけたら、染色液の中に投入。鍋の中の染色液を前に「お茶みたい匂いがする」と、一人が言い出すと、次々、子どもも大人も鍋の上に鼻を突き出しクンクン。「本当だ!」「なんだか体に良さそうだね」と盛り上がっていました。約1時間、染色液に浸し、今回は鉄媒染てつばいせんもしくはミョウバンあとばいせんで後媒染を施し、完成です。世界に一つだけの素敵なトートバッグが出来上がりました。季節や植物の種類によって出て来る色が変わるのが、草木染の魅力だと思います。子どもたちと、また今度は春先にやってみようね、という約束をして帰路につきました。

